



海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートしています。
今回、香港駐在員事務所の稲富所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question 1

現地の状況について
教えてください

A 香港は1997年に中国に返還され、現在は外交と軍事を除く自治権を有する特別行政区として一国二制度が適用されていますが、2020年に香港で国家安全維持法が施行されて以降、一国二制度は形骸化しており人材流出などの影響が出ているとの報道も見受けられます。

一方で、香港はコモン・ロー（英米法）に基づく法制度、シンプルかつ低位な税制度や、高い経済自由度を維持しており、カナダのシンクタンクであるフレージャー研究所が発表する世界の経済自由度ランキング（2024年）において、香港が世界165カ国・地域中トップとなっています。

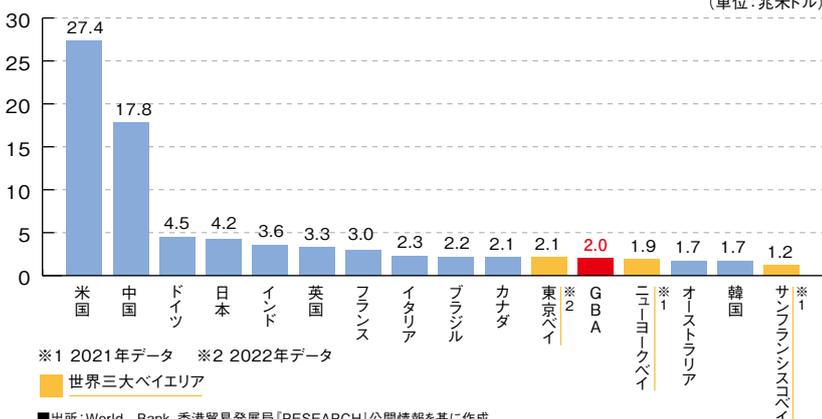
また、中国返還後の香港においては、2017年に中国中央政府の主導で香港・マカオと広東省の珠江デルタ9市を一つの経済圏として捉え地域発展を目指す、グレートベイエリア構想（※1）が

※1 GBAを構成する都市の地図



スタートしています。足元のグレートベイエリア（以下：GBA）のGDP規模は、先進国や世界三大ベイエリアと比較しても遜色ない水準となっており（※2）、GBA構想の主要都市である香港は、従来の強みである国際金融・物流のハブ機能の強化に加え、イノベー

※2 世界の国・地域別GDP (2023年)



ション・科学技術の発展などを担っています。そのような中、香港政府は2001年にイノベーショナル・科学技術発展のため香港サイエンスパーク（以下HKSTP）（※3）を設立しました。HKSTPは、延べ床面積37万㎡（サッカー場約70個分）の開発オフィスやラボ

■ 出所：World Bank、香港貿易發展局「RESEARCH」公開情報を基に作成



を備え、26の国と地域の2,200社を超える企業が入居しており、これまで13社のユニコーン企業を輩出しています。また、HKSTPは海外企業に対しても、助成金の支給、専任メンターの配置、投資家や現地企業とのマッチング機会の提供など手厚いサポートを行っています。

Question 2

現地企業の声を聞かせて下さい

A HKSTPに入居する日系大手メーカーの現地法人代表者にお話を伺いました。

「現地企業の声」

弊社は、中国企業との連携や中国市場での販路拡大を主な目的としてHKSTPに入居しました。HKSTPには、スタートアップ企業だけでなく中国の大手企業も入居しており、加えて中国のシリコンバレーと呼ばれる深圳市にHKSTP深圳分室があり、施設の相互利用も可能であることから、研究員の交流などを通じて様々な中国企業と接点を持ち連携を深めることが可能です。また、HKSTPでは、私共のような海外企業も、現地企業とのマッチング機会の提供など手厚いサポートを受けることができるため、販路拡大などの成果につながっています。

Question 3

海外ビジネスを目指すお客さまへメッセージをお願ひします

A 香港の人口は約750万人と中国の中では決して大きなマーケットではなく、足元では消費の低迷や経済のデカップリングによる影響には注視が必要です。しかしながら、香港は世界三大ベイエリアと遜色ない経済規模があるGBAの主要都市で、人口14億人を抱える巨大な中国マーケットのゲートウェイとして優位性があり、現在でも経済自由度が高い地域であると評価されています。香港事務所では、現地市場調査や現地企業とのマッチングのサポートのほか、今回ご紹介したHKSTPの現地視察のアテンドなども対応させていただきますので、香港でのビジネスにご興味がありましたらお取引店にご相談ください。



現地のおすすめや
過ごし方を
ご紹介ください

香港で人気の観光アクティビティにピンクイルカウォッチングがあります(※4)。ピンクイルカは成体になると体がピンク色になるシナウスイロイルカの愛称で、ピンクイルカを見ると幸せになれるという言い伝えがあり、ピンクイルカの写真をスマートフォン待ち受けにするのが叶うと言われています。香港中心部から日本語ガイド付きのオプションツアーも用意されていますので、香港観光の際の選択肢の一つとしてご検討されてはいかがでしょうか。

※4 ピンクイルカ写真



提供: HongKong Dolphinwatch Ltd